

## 市原認知症対策連絡協議会 第20回 例会議事録

日時 令和元年10月24日(木) 18時30分～21時00分

場所 市原市民会館 会議室棟3階 大会議室

### 1. 小沢先生よりご挨拶

### 2. ミニ講演会

『高齢者のペット問題』 千葉県市原健康福祉センター 健康生活支援課 藤川英一郎様

高齢者のペット問題は悪化しやすいため、将来に備えて早めの対策をしておくことが大切

平常時より早めの相談、情報共有が必要

### 3. プロジェクトチーム別検討会

下記の各チームに分かれて現状報告、今後の活動等について話し合いを行なう。

詳細は別紙参照。

- A 若年性認知症対策プロジェクト
- B 認知症サポーターの活動推進プロジェクト
- C 在宅介護者を支えるマニュアル作成プロジェクト
- D 服薬支援ネットワークプロジェクト
- E 新規プロジェクト検討プロジェクト
- F フェスタプロジェクト
- G RUN伴プロジェクト
- H ステッカープロジェクト

### 4. 交流グループワーク 「災害時体験」をテーマに意見交換、情報共有を行なう。

それぞれのグループより発表

○施設同士でグループラインをつくり、情報を共有していた。

災害時、連絡がとれるような手段を作れるといいのではないか。老健の参加はどうするか。

○施設は福祉避難所となっているが、施設がそれぞれの動きをしていて市の動きがない。

市との話し合いが必要なのではないか。

○事業所自体が被災している。利用者の状況により、ショートなど例外的にサービスを利用することもあり、災害の状況により定員を超えてもいいという決まりがあればいい

のではないか。

- 地域により困りごとが異なり、包括だけですべての高齢者の把握はできない。
- オール電化の住まいの方がいて、家中のシャッターが閉まり、セキュリティなども止まってしまった。
- ケアマネとして訪問時、ペットボトルとコンロを持って行った。
- デイが停電、休業知らせが出せなかった。
- 独居の人に情報が届いていなかった。
- 認知症の方について、避難所ではヘルプマークを活用し対応した。
- 連絡する手段がなく、直接伝えに行った。
- ピンク電話、黒電話は使うことができた。発電機を使用、電源車をよんだ。
- 保険の内容で災害の特約に入っていない方もいる。
- 日頃より、地域を巻き込んだ訓練が必要なのではないか。
- カップラーメン、即席めん（油めん）は水で戻るが、生めんやうどんはだめだった。
- 8050 世帯の対応が大変。
- 氷が必要だった。
- 情報収集、情報発信が大切。市がどのように情報を集約し、発信していくかが課題。
- 市認協で災害対策プロジェクトを立ち上げたほうがいいのではないか。
- 災害時の認知用向けの情報伝達人形のようなものを開発し、災害時に配るのはいかがでしょうか？
- 介護者の方に話を聞いたところ、認知症の夫を連れて避難はできないということだった。  
停電により、いつもの環境と異なるため主治医に相談し入院することになったが、症状が進行している様子がみられた。
- 災害時は自分たちのことで精一杯になってしまうが、町会など小さい単位で動くことがいいのではないか。
- 地域での安否確認の際には、安心訪問員など元気なお年寄りに活躍してもらおうとはどうか。
- 停電時、介護用ベッドが動かなくなってしまった。ベッドの説明をする時に、災害時を想定して伝えることでもいいのではないか。
- 病院や施設などの通常訓練には、地域住民を巻きこんでやるべきでは？
- 山間部では、災害特約の保険に入っていない家が多い
- 東日本震災時には、福祉車両優先給油のような対応があったが、今回は何もなかった。
- 県から状況をエクセルでメールか F A X 送付を求められたが、不可だった。
- 市役所に行ったが、支援物資配布済のチラシがあった。

（文責 安田 村山）